

『全国公立学校教頭会研究大会・静岡大会参加報告』

第3分科会は、アクトシティー浜松コンgresセンターにおいて開催され、奈良県天理市教頭会、富山県魚津市小中学校教頭会及び静岡県島田市教頭会からの3本の提言をもとに、～教頭として、地域とよりよい連携をしていくためにはどうしたらよいか（第1，2提言）～及び～教頭として、教職員の安全に関する指導力を向上させるためにはどうしたらよいか、また、児童生徒の危険予測・危機回避能力を育成するためにはどうしたらよいか（第3提言）～を討議の柱としてグループ協議が行われた。

はじめに奈良県天理市教頭会からは「地域との連携による教育活動と教頭の役割」を主題として、地域とともにある学校づくりを目指した「学校・地域パートナーシップ事業」への取り組みについて発表があった。この事業は始まって3年を経過するが、各校がそれぞれ学校と地域を結ぶ地域コーディネーターをおき、児童生徒の安全支援、学習支援、体験活動支援等に地域の力を生かそうとしたものである。この取り組みでは、各種式典や行事に学校へ足を運ぶ保護者が増え、それに伴って保護者の意識が変わってきたなどの成果が見られた。一方課題としては、さらに教職員や保護者・地域の方に理解を深めてもらうこと、ボランティアの人数を増やすことなどがあげられた。

次に富山県魚津市小中学校教頭会からは「学校・家庭・地域と連携した特色ある学校づくりを目指して」を主題として、学校支援ボランティアの取り組みを中心とした発表があった。ここでは、市内各小中学校の実態を調査し、それらの活動の内容を共有し、さらに教職員が変わっても継続した活動を行うための「地域と連携した教育活動実施の手引き」を作成し成果を上げている。しかし、近い将来小学校の統廃合が進み校区が再編されていくので、いかに新しい校区においても引き続き地域との連携を進めていくかが課題となっている。

最後に静岡県島田市教頭会からは「学校安全における教頭の職務」を主題に、教職員及び児童生徒の危険予測・危機回避能力を育成するための取り組みについて発表があった。これは教頭が中心となり市内各小中学校が同一步調で安全教育を推進していった事例である。まず教頭が県の危機管理局職員より研修を受ける。次にその教頭が各校で教職員に対し研修を行う。そして教職員が児童生徒に対して授業を行うというものである。これらの研修や授業では、DIG（災害図上訓練）やHUG（避難所運営ゲーム）等の図上訓練を用い、実際の災害を想定し、様々な条件の下での避難方法や対処の方法をきめ細かく確認している。この取り組みにより、市内の小中学校で同様な防災教育を行い、教職員が異動しても各校の教職員研修や児童生徒への指導を継続して行える体制づくりを目指している。

終わりに、教育環境整備の核となるのは人である、それぞれの年代またそれぞれの立場の職員を育てていかなければならない。また、課題に対して何をしたかではなくどう取り組んだかが大切である。そのためには職員が同じ方向を向くことが重要である。さらに、特色ある活動とは日々の教育活動そのものであり、地域との連携もその中の一つの手立てである。そのためにはただ継続していくだけではなく、学校・職員・地域それぞれが納得したものをつないでいくことが教頭の役割であると指導・助言をいただいた。各県の情報交換も含めて活発な討議がなされた非常に有意義な分科会となった。

（塩山北中 丹澤 千明）